

新スタッフから

自然を知り、おいに楽しもう！

次長 阿部 勝彦

平成28年4月から飯綱庁舎の次長をしています。

飯綱庁舎の前身は「自然保護研究所」です。平成16年、当時の衛生公害研究所と統合される前のこの研究所は平成8年に開設されました。さらにその5年前の平成3年（今から25年前）、当時の自然保護課においてこの研究所の素案づくりを担当したのが私です。施設規模約3,000㎡、人員規模15名程度など現在の原型が検討されていました。自然保護の職場には従来から林業職が多く配置されていますが、退職を2年後に控え、25年振りに自然保護関係部署に戻ってきたというわけです。

既に何ヶ月か経過していますが、飯綱庁舎の適切な管理はもとより、研究員が研究に集中できる環境

づくりなどに注力し、自らも県内の多くの自然に触れ、当研究所の発展に少しでも寄与できればと思っています。

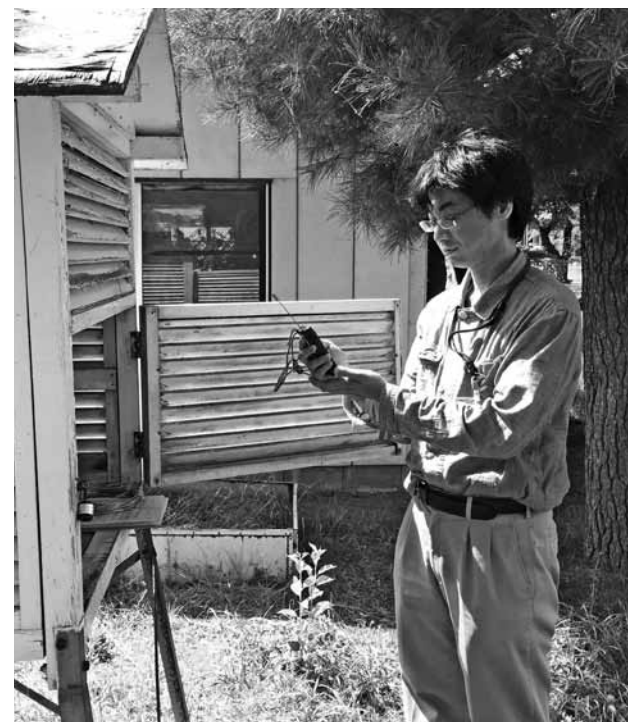


西澤清所長（右）と5月初旬の飯縄山頂にて

地球温暖化の影響を追って

環境保全特別研究員 大和 広明

この4月より温暖化対策班に所属になりました大和広明と申します。みなさん、「地球温暖化」という言葉を聞いてどのようなことを思い浮かべますか？単に気温が上昇していく現象だと思うかもしれませんが、なんだか将来大変なことが起きるような恐れを感じるかもしれません。現在、地球温暖化が確実に進行しており、2015年の世界の平均気温は過去最高を記録しました。長野県内でも今後いろいろな方面で影響が出てくるのが心配されています。そこで私の仕事は、いろいろな温暖化の影響を捉えることです。具体的には、長野県でいろいろな機関で観測されている気象データなどのデータベースの作成やモニタリングを通して、いろいろな影響を監視していきます。私自身暑いのは苦手なので、温暖化の影響をいち早く捉えられるようにがんばります。よろしくお願ひします。



長野市内の小学校にて気象データの回収中